

研究紀要

# くらしをひらく子ども

—— 自ら人との関わりを豊かにしていく授業 ——

1998

島根大学教育学部附属小学校

## は じ め に

本校の授業研究は過去3年間、「くらしをひらく子ども」を主題として、「個性豊かに自己を表現する姿を求めて」を副題として継続してきた。その成果として、次の2点について子どもの成長の跡が認められた。

- (1) 自分の思いや願い、考えをしっかりともつこと
- (2) 自分なりの方法で思いや願い、考えを友だちに伝えようとする事

しかし、反省点としては、子どもたちがお互いを必要な存在として意識し、友だちと共に学習していくことの楽しさを感じていくことへの着目が弱かったことが挙げられる。

この反省点に基づいて、子どもたちがお互いを共感的に理解し、子どもたちの関わりを豊かにしていくような学習のあり方を求めることを目的とした副題「自ら人との関わりを豊かにしていく授業」を掲げた。

ところで、人間や高等動物における個性は、性格、考え方、感情表現など頭脳と心に起因する問題に影響を受けながら、形成されていく。即ち生まれながらの先天的な個性と、生まれてからの生活環境、教育環境など、多様な環境によって後天的に形成される個性があるのである。

人間、高等動物は相互に関わりあう集団の生物と言われている。野生の高等動物の集団は、小さな地域集団としての社会を形成しながら生きている。また、人間の集団社会は小さな地域集団を中心としながらも、その連携の広がりは今や全世界的となりつつあり、そこでの関わりの広さも全世界的となりつつある。そして、自然発生的な集団以外にも、いくつもの人為的な集団が形成されている。この人為的な集団のひとつに学校がある。学校生活そのものが集団生活であり、その中の学級生活は集団生活の中核をなすものである。

この集団生活としての学校生活の中で、友だちとの関わりを通して社会性を身につけることは、人間が社会的に生きていく力の原点となるものである。多くの友だちと関わり、交わり、ある時には対立し、相手の反応を身体と心で感じながら、相手を理解し共感する。そして、自己の立場を認識していく。子どもたちが学級の中で授業を通して、自発的に自己表現し、豊かな友だちとの関わりによって相互に共感し合うことは、子どもの豊かな社会性の形成に必要なことであり、社会的に生きる力の中核となる。

折しも、教育課程審議会の中間まとめが昨年11月に発表された。その内容の中で各学校段階・各教科等を通じる主な課題に関する基本的な考え方に、①道徳教育、②国際化への対応、③情報化への対応、④環境問題への対応、⑤高齢社会への対応、⑥横断的・総合的な学習などが挙げられている。これらの課題には、子どもたちがくらしをひらき、そして豊かに関わり合うことが底流にあるように思えてならない。

道徳教育においては、豊かな心を持ち、人間としての生き方を自覚し、道徳的実践力を育成する。すなわち、多くの人との関わりの中から、正しい社会的道徳心を育成し、人との関わりを豊かにすることである。国際化への対応では、広い視野をもって異文化を理解し、異なる文化や習慣をもった人々と偏見を持たずに交流し、関わって共に生きていく資質や能力を育成する。情報化への対応では、子どもたちがコンピューターなどを使い、情報を主体的に活用できる資質や能力を育成する。環境問題への対応では、環境と人間相互との関わりを理解し、環境の保全と人間相互の協力による、よりよい環境創造の資質、能力を育成する。高齢社会への対応では、高齢者や障害のある人との交流、触れ合い活動の実施と他者への尊敬、思いやりの気持ちの育成、すなわち、人と公正に、広く豊かに関わる心と行動力を育成することと考えることができる。このように、単一の教科の学習に固定することなく、横断的・総合的に学習し、多くの人々と豊かに関わり合うことの必要性と重要性が述べられている。

この研究紀要には、子どもたちの自ら人との関わりを豊かにしようとする多くの姿が記されている。子どもたちの姿を見ていただき、理解していただければ幸いです。

平成10年6月11日

学校長 山下 晃 功

# 目 次

はじめに .....	学校長 山下 晃 功	
I 暮らしをひらく子ども .....		1
-自ら人との関わりを豊かにしていく授業-		
II 教科における授業の構想と実践		
国 語 科 表現の価値を追求する国語科学習 .....		11
-言葉に自覚的に関わっていく姿を求めて-		
社 会 科 子どもが自分との関わりで社会事象にせまっていく学習 .....		28
算 数 科 数理を追求する楽しさを感じる学習 .....		40
理 科 子どもが自ら自然を探究していく理科学習 .....		57
-多様性が生きる問題解決-		
生 活 科 子どものくらしが広がる生活科の学習 .....		74
-思いや願いをもち、活動に没頭する姿を求めて-		
音 楽 科 子どもが感じたことを豊かに表現していく学習 .....		86
-一人ひとりの創造力を高めていくために-		
図画工作科 友だちとの関わりの中で自分のイメージをふくらませる図工科学習 .....		93
家 庭 科 子どもが自らのくらしを豊かにつくっていく学習 .....		105
-人や物との関わりに目を向けて-		
体 育 科 子どもが運動する楽しさを追求する体育学習 .....		112
-ともに運動するよさに注視して-		
なかよし 子どもが互いにくらしを高める「なかよし」の活動 .....		126
特 殊 教 育 子どもが楽しむ学校生活 .....		138
-友だちと関わりながら生き生きと活動する姿を求めて-		
保 健 健康について考えられる場面を大切に活動 .....		157
おわりに .....	副校長 花谷 耕 三	
研究同人		

# I 総論

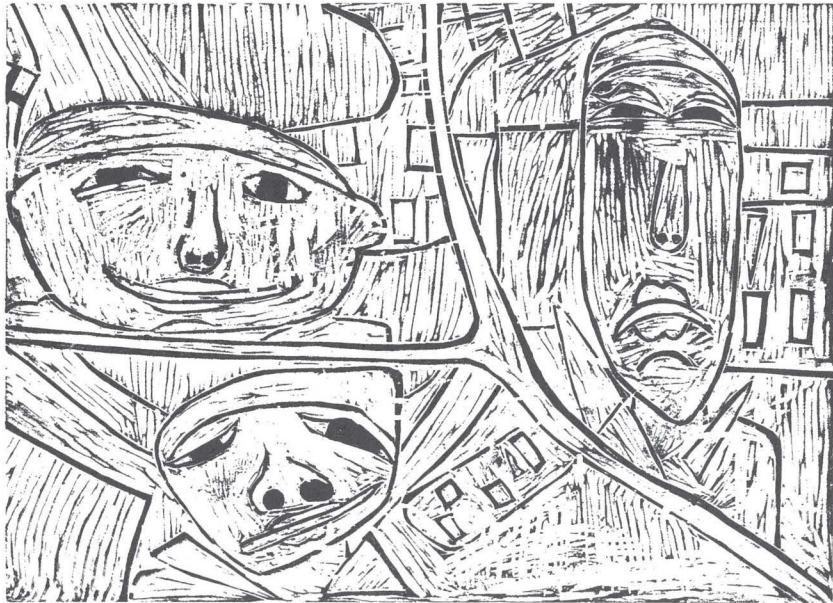
## くらしをひらく子ども

— 自ら人との関わりを豊かにしていく授業 —



「どうぶつがたくさんきたよ」 1年 皆美匡宏

## II 教科における授業の構想と実践



「スプーンにうつったぼくの顔」 6年 内田 充 哉

## お わ り に

わたしたちは、平成5年度より「くらしをひらく子ども」を研究主題に、子どもたちが豊かな人間性を持ち、自らの思いや考えで主体的に行動できる人間に育つことを願ってきました。そして、子どものくらしの基盤を豊かなものにしていく環境を設定する中で、自らの力でくらしを切り拓いていく力をもった子どもの育成をめざして参りました。

次は、「川から自然を考える」と題した子どもの日記です。

今日私たちはより道をしました。そこは、大輪町のふくしまの近くの川。その橋げたにもたれかかって、川をずっとながめていました。魚と同じ、いえ本物の魚のようなかげ。100匹はいようかと思う魚たち。川にうつる木や葉。反対に木がうつった川の水の流れ。とてもきれいでした。その自然をずっと見つめている後ろで、車の騒音。そして、川に浮かぶゴミ。見事なアンバランスでした。その後私は、しばらく自然のことばかり考えていました。確かに、便利になるのはいいかもしれないけれど、道はアスファルトにほそうされ、土に出会えないありさま。確かに歩きやすいけれど、便利にしようとして、自然をはかいしては意味がありません。もしかしたら、人間は自らおこしたことで、ほろんでしまうかもしれません。アスファルトの下の土はどうしているのでしょうか。ちゃんと生きていますのでしょうか。

5年 K. I

この子どもは、川をじっと見つめることを通して、自然の美しさに魅かれながらも、便利さと引きかえに大切なものを失った社会の現実を鋭く見つめています。くらしの中で、身近な自然や社会に関心をもつとともに、意欲をもってこれらに積極的に関わりながら、そこに自分らしい疑問や課題を見つけ、考える子ども。こうした子どもの姿も、わたしたちの求めている姿の一つであると言えます。

「くらしをひらく子ども」を求めて6年目。これまでの研究の経緯を踏まえながら、昨年度から「自ら人との関わりを豊かにしていく授業」をサブテーマに、教育課程を改善していくとともに、授業の中で見られる子どもどうしの関わりに着目して研究を進めてきました。これは、子どもが自ら人との関わりを豊かにしていく授業を構想するとともに、ともに高め合おうとする子どもの姿を引きだして研究主題で願う子どもの姿にせまっていこうとしたものです。

今年度は、サブテーマ2年次として、わたしたちの願う授業を具体的に構想するために、子どもの姿のイメージ化と授業の焦点化に着目して研究を推進していこうと考えています。今回の研究発表協議会では、こうした今までの研究の取り組みの一端を提案いたします。

これからの教育には、生きる力の育成が強く求められています。わたしたちの研究もこうした生きる力の育成を願った研究でもあることの認識に立ち、日々実践研究の推進に努めて参りたいと考えています。諸先生方の忌憚のない、ご意見、ご批判をいただくとともに、今後とも本校の研究に温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

終わりにになりましたが、この度全体講師として麻布大学教授増井光子先生をお招きし、ご講演を賜わりますことに対し、厚くお礼申し上げます。

平成10年6月11日

副校長 花谷耕三

## 研究同人

(平成9年度・10年度)

学校長 副校長 教頭 研修部長	山下晃功 佐貫泰則 岡田正樹 和泉浩行	花谷耕三 (平成10年度) 赤木直行 (平成10年度)
国語	瀧山哲朗 金山剛志	昌子佳広
社会	赤木直行 吉崎朗	奥村忠孝 新田恵 (平成10年度)
算数	山崎敦史 川上宜久 (平成10年度)	原一夫 立石浩
理科	和泉浩行 原啓一朗	高橋泰道
生活	奥村忠孝 瀧山哲朗 松浦尚美	梶谷朱美 (平成10年度) 立石浩 金山剛志
音楽	岡田正樹	中村治子
図工	金築亨	大野寛人
家庭	平井早苗	常松ゆう子
体育	中筋幸夫 梶谷朱美 (平成10年度)	藏敷真吾 松浦尚美
なかよし	平井早苗 藏敷真吾 立石浩 原啓一朗 大野寛人 (平成10年度)	奥村忠孝 川上宜久 (平成10年度) 昌子佳広 山本勉 (平成10年度)
特殊	西島博 天野千里	奈良井正 山本勉
保健	倉石美津子	

この研究紀要に収録されている授業記録は、次のような約束にもとづいて記載されています。

↓ 複式学級の下学年を表す

60 C<sub>2</sub>      C : 児童      T : 教師

↑ 児童を表す番号

その時間の発言の通し番号

---

平成10年6月11日 印刷

平成10年6月11日 発行

発行所 島根大学教育学部附属小学校

〒690-0882 松江市大輪町416-4 (TEL 21-2471)

URL <http://www.chidori.shimane-u.ac.jp>

e-mail [chidori@edu.shimane-u.ac.jp](mailto:chidori@edu.shimane-u.ac.jp)

印刷所 (有)木次印刷

飯石郡三刀屋町1635 (TEL 0854-45-2515)

---